

## 進捗状況の概要（１ページ以内）

## 【学内の実施体制】

山形大学では、教育効果の最大化と教員組織の効率化を図るため、平成２７年度から学術研究院を設置し、全ての教員の所属を学術研究院とし機動的な人員配置を行う体制を構築した。あわせて、各学位プログラム、教員、授業と教育リソースを全学横断的に有機的に結合した。また、学長主導の全学教学マネジメント体制を実現し、迅速な意思決定を可能とするために、平成２８年度から基盤教育院を発展的に改組して学士課程基盤教育機構を設置し、学部横断的に教育を実施する体制を整え、本組織体制は平成２８年度で完成した。

## 【中心となる取組】

(１) ３つのポリシーに基づく教育活動の実施として、山形大学ディプロマポリシー及び基盤共通教育の教育方針（カリキュラムポリシー）に基づき、それらを具体化するためのアクティブラーニング型授業として導入科目・基幹科目を設定した。

(２) 平成２８年度に試行した基盤力テストの本格実施として、「学問基盤力テスト」「実践・地域基盤力テスト」「国際基盤力テスト」の３つのテストを平成２９年４月入学の１年生に実施した。また、卒業後のキャリアと基盤力テストの結果を遅滞なく評価するため、先行して卒業直前の４年生４３名に基盤力テストを受講させた。

## 【取組の成果】

(１) 導入科目「スタートアップセミナー」(必修)では、大学での学びの導入として情報検索・グループワーク・プレゼンテーション・レポート作成の４技能について集中的に学修する内容に改善した。そこで学んだ内容を基幹科目「人間を考える」「山形を考える」(どちらか選択必修)、「山形から考える」(必修)で活用するよう設定した。「山形から考える」は地域型授業として、全１年生の３３%の履修生がフィールドワークに参加する内容とした。

(２) １年生４月当初に３つの基盤力テストを完全実施した。１年終了時の基盤力テストは２年生当初の平成３０年４月に実施する体制を整えた。卒業直前の４年生４３名に、卒業生調査の一環として先行して基盤力テストを実施したことにより、入学時から卒業時までの到達度情報が得られ、評価検証の基盤となった。

## 【補助期間終了後の継続発展に向けた取組】

山形大学は学長主導の学士課程教育改革としてこれまで、博士課程基盤教育機構設置による教育の全学一貫化、３つのポリシーに基づく教育の体系化と実質化、EM-I Rや基盤力テストをはじめとしたアウトカム・ベースドの教育検証と可視化、FD/S D活動の実質化、山形大学アライアンスネットワークをはじめとしたステークホルダーとの協働・評価など、大学教育改革を先導する取り組みを行ってきた。補助期間終了後においても、各取り組みにおけるP D C Aサイクルを回し、改革し続ける態勢が整っている。

## 【学内外への波及効果】

基盤力テスト実施体制の完成後、基盤力テストの各項目と評価内容や手法等について公開していく予定であり、大学間連携共同教育推進事業の連携校やFDネットワーク“つばさ”加盟校に参加や試行を呼びかけ、連携FD及び連携I Rの一貫として実施する。また、保護者を含めたステークホルダーで構成された協同的な外部評価体制や、山形大学アライアンスネットワークの活動について、全国の大学関係者の見学を受け入れるとともに、教育関係の全国会議や学会で発表していく。このほかの取り組みについても、ウェブページで公開していくとともに、見学の受け入れ、ワークショップや会議などでの発表を通して、全国の大学への波及をすすめる。